

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 19日

中施策事業名	リサイクル推進事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田直寛
①めざすまちの姿	06 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである		
②大施策	ごみが落ちていないきれいなまちをつくる		
③中施策	人々のマナーの向上を図る		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	ごみとして排出されている資源物が資源としてリサイクルされている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源回収</li> <li>・リサイクルの普及</li> </ul>		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
リサイクル率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	26.6	26.7	26.8	26.9	26.9	26.9
	実績値	24.1	23.3				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		148,355千円	136,963千円		
人件費	a 事業費合計	139,587千円	136,963千円	148,227千円	
	正規職員	人数	1.5人	0人	
		b 金額	8,768千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		8,768千円	0千円		
② 補助金等(収入)		24,757千円	18,965千円	16,764千円	
③ コスト(①-②)		123,598千円	117,998千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,796円	1,715円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平成30年度のリサイクル率は平成29年度と比べ0.8%減少している。新聞の購読者数の減少や民間資源回収の普及などの要因が考えられる。引き続き、啓発活動を実施することによりリサイクル事業を推進していく。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今年度は、「ごみの分け方・出し方」パンフレットの改訂を行う年度となっており、資源回収品目の見直し等を行い、ごみの減量が推進されるようにパンフレットの内容を見直す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	資源の分別区分を見直し、より効果的な資源回収方法の検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ごみの分別状況を確認するために組成調査を行い、調査結果を公表している。可燃ごみの中には資源に分類される物も混入しているため、調査結果と併せて分別徹底の協力を呼びかけた。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	剪定枝など新たな資源化に向けた検討を行った。また、先進自治体の取り組み状況などの情報収集を引き続き実施している。	

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 27日

中施策事業名	ごみ減量啓発事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田直寛
①めざすまちの姿	06 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである		
②大施策	ごみが落ちていないきれいなまちをつくる		
③中施策	人々のマナーの向上を図る		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民が排出するごみが減っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ごみ分別パンフレット ・アダプトプログラムの推進 ・ごみ減量化推進 ・事業系一般廃棄物の減量化推進 ・とよあけクリーン月間 ・資源分別説明会 ・食品ロス削減 ・出前講座		

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
資源説明会、出前講座の参加人数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	356	360	360	360	360	360
	実績値	1,147	1,125				
単位	人						
1人1日あたりの可燃・不燃ごみの排出量	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	495	495	479	456	433	410
	実績値	503	503				
単位	g						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		4,034千円	1,409千円		
a	事業費合計	1,696千円	1,409千円	2,392千円	
	正規職員	人数	0.4人	0人	
		b金額	2,338千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,338千円	0千円		
② 補助金等(収入)		307千円	7千円	307千円	
③ コスト(①-②)		3,727千円	1,402千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		54円	20円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	「豊明市家庭系ごみ減量化実施計画」の策定に伴い、ごみ減量の協力依頼を随所でおこなっている。平成30年度のごみの排出量は平成29年度を同じ量であった。なお、評価指標項目のうち「一人一日あたりのごみの排出量」については、「豊明市家庭系ごみ減量化実施計画」における目標値と同じ数値と改めた。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	昨年度に引き続き、「豊明市家庭系ごみ減量化実施計画」における削減目標（4年間で可燃ごみ20%減）の周知・ごみ減量の協力に向けた取り組みを行う。また、小学校への出前講座を引き続き実施する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	減量化目標の達成に向けたより効果的な減量化手法を検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 27日

中施策事業名	不法投棄対策事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田 直寛

①めざすまちの姿	06 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである
②大施策	ごみが落ちていないきれいなまちをつくる
③中施策	人々のマナーの向上を図る
④中施策事業の対象	市域
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	不法投棄がない
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・環境保全一般

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
不法投棄数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	253	253	250	250	230	230
		実績値	167	169				
単位	件							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成29年度	平成30年度	平成31年度
① 総事業費(a+b)			3,268千円	3,188千円	
人件費	a 事業費合計		2,099千円	2,103千円	2,017千円
	正規職員	人数	0.2人	0.2人	
		b 金額	1,169千円	1,085千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	2,099千円	2,103千円	
人件費合計		3,268千円	3,188千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	1,142千円
③ コスト(①-②)			3,268千円	3,188千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			47円	46円	

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	不法投棄数については、横ばいとなっており事業としての役割を果たしている。今後、不法投棄の監視を継続していくことで、不法投棄が行われにくい環境にしていくことができる。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	不法投棄物を発見した場合、早期に発見、シール等による警告を徹底するとともに、環境監視員による巡回が行われていることを、広く周知していくことで原因者が不法投棄を行おうとする気を起こさせないようにしていく必要がある。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	投棄物に警告シールを貼って処理するという、場当たりのな処理方法から、不法投棄をさせないような方法を模索していく必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 27日

中施策事業名	新エネルギー推進事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田 直寛

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	エコライフを促進する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多くの市民等が、再生可能エネルギー設備を積極的に導入し、「地域のエネルギーで豊かに暮らすまち・豊明（新エネルギー推進計画）」を実感するようになる
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新エネルギー推進委員会に関すること</li> <li>・地中熱利用事業に関すること</li> <li>・太陽光発電屋根貸し事業に関すること</li> <li>・太陽光発電事業の計画立案に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
再生可能エネルギー（太陽光発電等）による年間売電 量	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	16,736	18,410	20,251	22,276	24,503	26,954
	実績値	19,717	20,946				
単位	MWh						
エネファーム（燃料電池）補助金申請件数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	20	20	20	20	20	20
	実績値	20	20				
単位	基						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		108,403千円	77,325千円		
人件費	a 事業費合計	102,558千円	71,904千円	74,525千円	
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,845千円	5,421千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,845千円	5,421千円		
② 補助金等(収入)		182千円	750千円	250千円	
③ コスト(①-②)		108,221千円	76,575千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		1,573円	1,113円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	エネファームの補助金の実績は予定数上限まで達することができた。また、太陽光発電施設も想定を上回る発電実績をあげている。長期的にはメンテナンスコストの増加、経年劣化による売電量の減が想定される。職員向けにSDGsに関する研修を行い、再生可能エネルギー及び地球温暖化に関する理解を深めた。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	エネファーム補助については、機器導入が普及期から成長期、成熟期に差し掛かってきているため、補助対象機器の変更を検討していく必要がある。また、太陽光発電についても、長期的なメンテナンス費用も含めた積立金額の見直しを検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	超長期的なメンテナンス計画を立てたうえで、一般会計への繰出金額の見直し、積立額の見直しを行う必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 27日

中施策事業名	合併処理浄化槽設置補助事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田直寛

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	市内の大気汚染や悪臭の問題を少なくする
④中施策事業の対象	下水供用区域外の住居
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	単独浄化槽等から合併浄化槽となっている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・生活排水

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市内単独処理浄化槽数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	1,910	1,900	1,890	1,880	1,870	1,860
	実績値	1,917	1,914				
単位	基						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		9,705千円	7,470千円		
a	事業費合計	7,367千円	5,301千円	6,601千円	
	正規職員	人数	0.4人	0.4人	
		b金額	2,338千円	2,169千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.5人	0.5人	
		金額	280千円	371千円	
人件費合計	2,618千円	2,540千円			
② 補助金等(収入)		4,378千円	4,236千円	3,321千円	
③ コスト(①-②)		5,327千円	3,234千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		77円	47円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	合併浄化槽補助事業として補助を行ってきて一定の効果があつた。合併浄化槽は下水道地域以外に住宅を新築するにあたり必須となっており、新設への補助は水質の改善に効果が見込まれない。より水質改善に効果のある、単独浄化槽及び汲み取り便槽からの合併浄化槽への切替を重点的に進めていく必要がある。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成31年度より、新設の合併浄化槽への補助を廃止し、単独浄化槽及び汲み取り便槽からの転換に補助額を増加させた。事業者を中心に啓発を図ることにより、単独浄化槽及び汲み取り便槽の合併処理浄化槽への切替を進める必要がある。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 17日

中施策事業名	公害対策事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田 直寛

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	市内の大気汚染や悪臭の問題を少なくする
④中施策事業の対象	市内の河川及び大気
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	河川の水質が浄化されているとともに車等の排気ガスが抑制されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 公害

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
河川の春季におけるBODの環境基準(3mg/L以下)達成箇所数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	3	3	4	4	4	5
	実績値	2	7				
単位	箇所						
大気環境測定局における浮遊粒子物質の測定値(年平均)	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	18	18	18	17	17	17
	実績値	18	18				
単位	ppm						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		9,936千円	12,056千円		
人件費	a 事業費合計	7,598千円	9,887千円	9,403千円	
	正規職員	人数	0.4人	0.4人	
		b 金額	2,338千円	2,169千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	2,095千円	2,103千円	
人件費合計		4,433千円	4,272千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	1,141千円	
③ コスト(①-②)		9,936千円	12,056千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		144円	175円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	公害対策がある程度進展しているため、現状に比べて大幅な改善は今後も見込めないなかで、30年度は測定河川すべてで、環境基準を達成できた。今後も現状を維持し、問題発生時に対応できる体制を実現する。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	平成31年度に自治総合センターからの補助金を活用し、水生生物調査を実施することとなった。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項		
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 17日

中施策事業名	温暖化対策推進事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田 直寛

①めざすまちの姿	09 空気がきれいである
②大施策	きれいな空気を保全する
③中施策	排気ガスの排出量を抑制する
④中施策事業の対象	公用車
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	温室効果ガスが削減されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球温暖化対策立案に関すること</li> <li>・エコアクションプランに関すること</li> <li>・省エネルギー政策の推進に関すること</li> </ul>

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
公用車における温室効果ガス総排出量についての対26年度削減比率	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	2	3	4	5	5	5
	実績値	10.3	34				
単位	%						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		7,760千円	7,336千円		
人件費	a 事業費合計	1,915千円	1,915千円	1,933千円	
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,845千円	5,421千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,845千円	5,421千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		7,760千円	7,336千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		113円	107円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標指標を大幅に達成できた。しかしながら、消防署の尾三消防本部への所管がえの影響が大きく、削減努力による部分が見えづらくなっている。
-----------------------------	--

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	世界的に地球温暖化への取り組みが進む中で、現行のエコアクションの取り組みのみでは対応しきれなくなっている。制度的な見直しの時期に入っている。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	環境基本計画の策定に合わせて、制度改正及び周知を行っていく必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

# 中施策評価書

作成日 令和元年 6月 3日

中施策事業名	有機循環推進事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田直寛

①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
③中施策	市民とともに緑が続く環境をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	可燃ごみとして排出されている生ごみが各家庭で堆肥化・減量化されている。
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・生ごみ堆肥化促進容器等購入費補助金交付事業

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
補助金を交付した 生ごみ堆肥化促進 容器数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	50	30	30	30	30	30
	実績値	19	11				
単位	基						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額	決算額	予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		61,075千円	2,502千円		
a	事業費合計	54,061千円	2,502千円	2,271千円	
	正規職員	人数	1.2人	0人	
		b金額	7,014千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		7,014千円	0千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		61,075千円	2,502千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		887円	36円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	生ごみ堆肥化促進容器の購入費補助件数については、平成29年度よりも減少した。ごみ減量施策の一環として、生ごみ堆肥化促進容器の購入補助を周知し、有機循環推進につなげていく。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	生ごみの堆肥化促進にとどまらず、食品ロスの発生抑制に向けた啓発活動に取り組む。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	食品ロスの発生抑制につながる啓発活動の検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況	ごみ減量に関する説明会などで生ごみの水切りの徹底や堆肥化容器購入費補助の周知を行った。	
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	堆肥化容器購入費補助の実績の推移を踏まえ、今後の方向性を検討する。	



# 中施策評価書

作成日 令和元年 5月 31日

中施策事業名	墓地管理事業	部課名	経済建設部・環境課
		作成者	堅田 直寛

①めざすまちの姿	10 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている
②大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
③中施策	生活利便性の高い街をつくる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	勅使墓園が有効に利用されている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・墓地 ・火葬場 ・墓園事業

## ■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
空墓所数の残数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	737	732	727	722	717	712
	実績値	686	672				
単位	基						
	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

## ■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成29年度	平成30年度	平成31年度	
① 総事業費(a+b)		22,949千円	22,328千円		
人件費	a 事業費合計	20,611千円	20,159千円	23,500千円	
	正規職員	人数	0.4人	0.4人	
		b 金額	2,338千円	2,169千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,338千円	2,169千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		22,949千円	22,328千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		333円	324円		

## ■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	C
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標自体を見直す必要がある	×	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

## ■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	周知方法を工夫することにより、例年に比べ販売数を伸ばすことができ、空き墓所数が減少した。しかしながら、近年の墓地に対する考え方の変化によりお墓の需要は減少していると思われる。
-----------------------------	---

## ■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	墓所についての需要減が見込まれる中で、より効率的な経営が求められる。民間事業者への包括管理にむけた検討を行っている。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	勅使墓園の将来的収支計画も含め、永続的に事業が行えるような制度に改める必要がある。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		